

自分で考えて過ごす夏休みにしよう



吾孺二中 ニュースレター

墨田区立吾孺第二中学校

令和5年7月20日(木)
校長 駒田 るみ子

PTA・育成委員会に よる一斉パトロール

7月20日19時からPTAや育成委員会の皆様と一斉パトロールを行いました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。二中地区では大きな問題は見られませんでした。

卒業生のお話を聞く会

卒業して2年4ヶ月。立派に成長した先輩たちの言葉は、3年生へのエールのようなものでした。

「行ける学校ではなく、行きたい学校が志望校」

「親や先生からやらされているのではだめ。主体的に」「いきなり難しい問題を解いても解けない。基礎からやるのが大事」などなど。すばらしい先輩たちの様子に3年生はエールをもらったようでした。

薬物乱用防止教室

墨田区薬物乱用防止推進連絡協議会の皆様、保護司会や向島警察署の皆様からお話をいただきました。



本日夏休み前の全校集会を行いました。保護者、地域の皆様、そして多くの吾孺二中を応援してくださっている皆様に改めて感謝申し上げます。今号では夏休みを前にして生徒たちに話した内容を紹介いたします。

「井戸の水を飲む時は、井戸を掘った人のことを考えよ」

校長 駒田 るみ子

子供の頃、夏休みにとっても楽しみにしていたことがありました。それは、祖母の家に行くということです。その家には井戸がありました。のぞき込むと真っ暗でドキドキしました。その井戸の水はとてもおいしく、西瓜(すいか)を冷やすこともできるくらいに冷たかったです。

井戸のおいしい水を飲む度に、父親から繰り返し繰り返し言われた言葉があります。それは「井戸の水を飲むときは、井戸を掘った人のことを考えなさい」という言葉です。直接的に掘った人に感謝しなさいと言われたわけではありませんが、なんとなくそういうことだろうとは思っていました。子供の頃はあまり考えていなかったかもしれませんが、もう50年以上前のことです。この言葉を繰り返し言い聞かせてくれた父は、10年前に亡くなりました。とても寂しいです。でも亡くなった人の言葉は今もこうして生きてきた言葉として、今、私から皆さんに届けられています。

「井戸の水」と同じように私たちは多くの人々の仕事、多くの人々の思いのおかげで今を生きていくことができます。私たちの周りの全てが、多くの人のおかげで成り立っています。おそらく、私が父から受け継いだ命や言葉が、次の世代につながるように、皆さんも親御さんからいただいた命や言葉を、次につないでいくことになるでしょう。そう考えると自分の命は、自分にとってとても大事なものだけれど、自分だけのものではないことに気付くはずですよ。さらに多くの人たちとつながっていることにも気が付くのではないのでしょうか。人は自分のために頑張る以上に、人のためにより多く頑張ることができると思います。スポーツ選手の話では、「応援してくれた家族のために、教えてくれたコーチのために頑張れた」という言葉をよく聞きます。誰かとつながっていることが、私たちを強くしてくれているのでしょう。

どうぞ、この夏休み普段できない経験を通して、たくさんの「井戸を掘った人」を見つけてください。そして、人と人とのつながりについて改めて考えてください。だからこそ辛いことや困ったことがある時は、一人で悩まずに必ずSOSを出しましょう。先生達はいつも皆さんを守っています。必ず教えてください。ではよい夏休みを過ごしましょう。